

こどものまち 「みやっこタウン」の開催

令和7年度実施分 宮古市提案事業

実施団体名：NPO法人みやっこベース

協働対象部署名：宮古市教育委員会学校教育課

実施日（期間）：2025年4月～2026年3月

解決したい課題（事業のテーマ）

①子どもの体験活動、キャリア教育の充実

- 子どもの自己肯定感の低さが問題
- 地域の教育力の低下→地域での体験活動の減少

②若年層の人口流出

- 高校卒業後、進学や就職のため転出
- 地域の企業や産業を十分に知っているとしターン意向が高まる？

①子どもの体験活動、キャリア教育の充実

自身について

日本は「自分には人に誇れる個性がある」「自分は他人から必要とされている」「勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある」「自分のしていることには、目的や意味がある」「自分の人生には、目標や方向性がある」で6カ国中最下位となった。
また、日本は「日々の生活で不安やゆううつを感じる」が65.3%で、6カ国中最も多い。

Q 以下の項目に同意しますか。（各国n=1000）

※「はい」回答率を掲載

	自分には人に 誇れる個性がある (単位：%)	自分は他人から 必要とされている	日々の生活が 楽しい	日々の生活で 不安やゆううつを 感じる	勉強、仕事、 趣味など、 何か夢中になれる ことがある	自分のしている ことには、目的や 意味がある	自分の人生に は、目標や 方向性がある	目標を立て、 何かを達成した 経験がある
日本	47.9 6位	52.7 6位	67.7 5位	65.3 1位	80.4 6位	63.5 6位	60.6 6位	75.2 5位
アメリカ	74.0	67.7	69.0	58.0	81.5	70.0	75.2	76.8
イギリス	72.2	64.6	63.4	56.7	82.7	67.8	73.6	73.4
中国	74.2	77.3 1位	79.5 1位	46.2	82.4	82.6 1位	81.3	78.1
韓国	68.9	73.7	76.1	49.0	83.9	79.9	74.5	84.5 1位
インド	84.0 1位	59.6	78.4	35.1	88.8 1位	80.1	88.2 1位	79.2

①子どもの体験活動、キャリア教育の充実

自身と社会の関わりについて 1/2

自身と社会の関わりについて、以下の全ての項目で日本は6カ国中最下位となった。特に「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」がそれぞれ3割に満たず、他の国に差をつけて低い。

Q 以下の項目に同意しますか。（各国n=1000）

※「はい」回答率を掲載

(単位：%)	自分は大人だと思 う	自分は責任があ る社会の一員だと思 う	自分の行動で、 国や社会を 変えられると思 う	国や社会に役立 つことをしたいと思 う	慈善活動のため に寄付をしたい	ボランティア活動 に参加したい
日本	27.3 6位	48.4 6位	26.9 6位	61.7 6位	36.2 6位	49.7 6位
アメリカ	85.7	77.1	58.5	73.0	66.7	70.4
イギリス	85.9 1位	79.9	50.6	71.2	69.5	64.2
中国	71.0	77.1	70.9	82.1	78.9	85.3 1位
韓国	46.7	65.7	61.5	75.2	62.4	70.7
インド	83.7	82.8 1位	78.9 1位	92.6 1位	83.7 1位	78.1

①子どもの体験活動、キャリア教育の充実

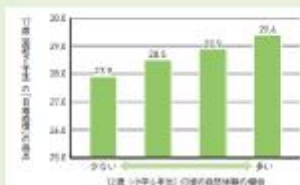
結果 ① 小学生の頃に体験活動などをよくしていると、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました

21世紀出生児縦断調査で回答されたデータを再分析したところ、小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情（自分に対して肯定的、自分に満足している、など）や外向性（自分のことを活発だと思ふ、精神的な回復力（新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向き、など）といった項目の得点が高くなる傾向が見られました。また、小学生の頃に異年齢（年上・年下）の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も同様の傾向が見られました。

このことから、**小学生の頃に行った体験活動などの経験は、長期間経過後でも、その後の成長に良い影響を与えていることが分かりました。**また、経験した内容（体験活動や読書、遊び、お手伝い）によって影響が見られる項目や時期が異なることから、子どもの健やかな成長を確かなものにしていくためには、1つの経験だけでなく、多様な経験をする必要があるということも窺えてきました。

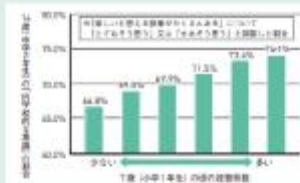
「体験活動」の影響

体験を多くすることによる影響を自然体験（キャンプ、登山、川遊び、ウインタースポーツなど）、社会体験（産業体験、職業体験、ボランティア）、文化的体験（美術館・博物館・美術館見学、音楽・読劇鑑賞、スポーツ観戦など）に分けて分析したところ、自然体験では主に自尊感情や外向性、社会体験では小・中・高校生の期間の向学校的な意識（勉強・授業が楽しい）、文化的体験は全ての意識（画面参照）に良い影響が見られることが分かりました。



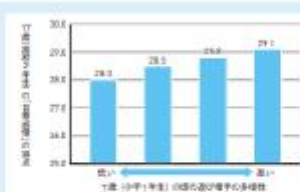
「読書」の影響

読書を多くすることによる影響を分析したところ、新奇性追求（新しいことに興味を持つ、など）や感情調整（自分の感情を調整する、など）、肯定的な未来志向（将来に対して前向き、など）といった精神的な回復力や、小・中・高校生の期間の向学校的な意識に良い影響が見られることが分かりました。



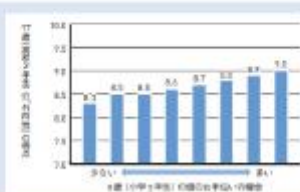
「遊び」の影響

遊び相手などによる影響を分析したところ、異年齢の子どもや家族以外の大人とよく遊ぶなど多様な相手と遊ぶ機会が多いと、自尊感情や外向性などに良い影響が見られることが分かりました。



「お手伝い」の影響

お手伝いを多くすることによる影響を分析したところ、自尊感情や外向性を始め、精神的な回復力、向学校的な意識など、全ての意識に良い影響が見られることが分かりました。

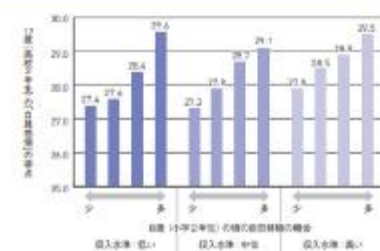


※上記の分析結果の詳細は、令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究結果報告、の「学校関係（各調査・分析結果の解説）」をご覧ください。

結果 ② 体験をよくしていると、家庭の経済状況に関わらず、良い影響が見られることが分かりました

子どもの成長には家庭環境の要因も影響することが考えられることから、子どもが置かれている環境（家族構成、収入、住環境、親のしつけ）を考慮して体験の影響を分析しました。その結果、小学校の時に体験活動などをよくしていると、家庭の環境に関わらず、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました。

そこで、世帯収入の水準別に分けて体験と意識との関係を分析したところ（右図参照）、**収入の水準が相対的に低い家庭にある子どもであっても、例えば、自然体験の機会に恵まれていると、家庭の経済状況などに左右されことなく、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました。**



社会全体で子どもたちの成長を支えていきましょう

多様な形で「体験」の場や機会をつくっていくことが重要です

小学生の頃に経験した「体験活動」（自然体験、社会体験、文化的体験）「読書」「遊び」「お手伝い」とその後の意識の関係を分析した結果、それぞれの体験の特性によってその後の意識に異なる影響が見られることが分かりました。

そのため、**子どもの健やかな成長を確かなものにするためには、何か1つの体験をするだけでなく、多様な体験をすることが必要になると考えます。**

また、体験する機会がよくある子どもは、家庭の収入や親の学歴が高い傾向にあることなどが背景にあると考えられますが、収入の水準が相対的に低い家庭の子どもであっても、体験活動などをよくした子どもはその後の成長に良い影響が見られることが示されました。そのため、**全ての子どもたちが様々な体験にチャレンジできるよう、周りにいる大人が「意図的」「計画的」にその機会や場を設けるようにすることが大切です。**

『できることから連携してやっていきましょう』

今後は、全ての子どもたちが置かれている環境に左右されことなく、体験の機会を十分に得られるように、みなさんと力を合わせて**『多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境づくり』**を進めていくことが重要です。

そのためにできることとしては、家庭ではお手伝いや読書の習慣を身に付けるようにする、地域では放課後などに地域の大人と遊びを通じて交流する機会を設ける、学校では社会に開かれた教育課程の実現を目指して地域と連携しつつ体験活動（自然体験・社会体験・文化的体験）の充実を図るといったことなどが考えられます。

こうした取組を通じて家庭・地域・学校が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていきましょう。

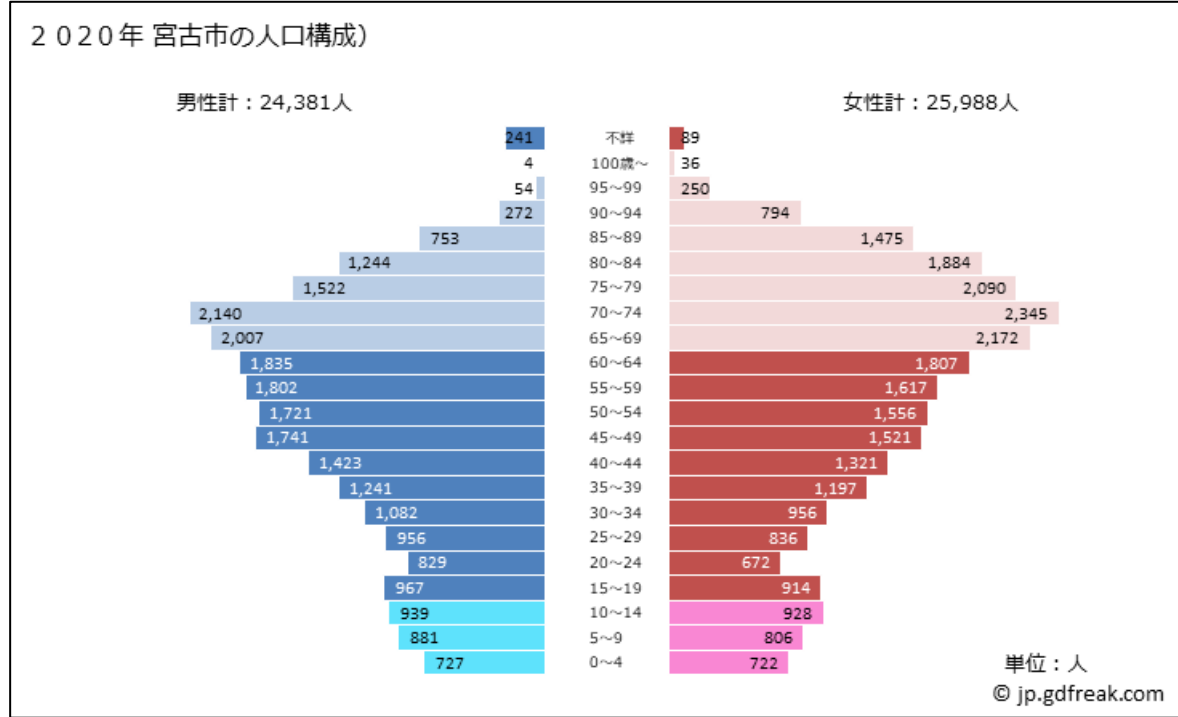


文部科学省では、豊かな体験活動を通じた青少年健全育成の推進について広く理解・普及を図るため、体験活動推進特設ページ（たっぷり体験）を開発しています。

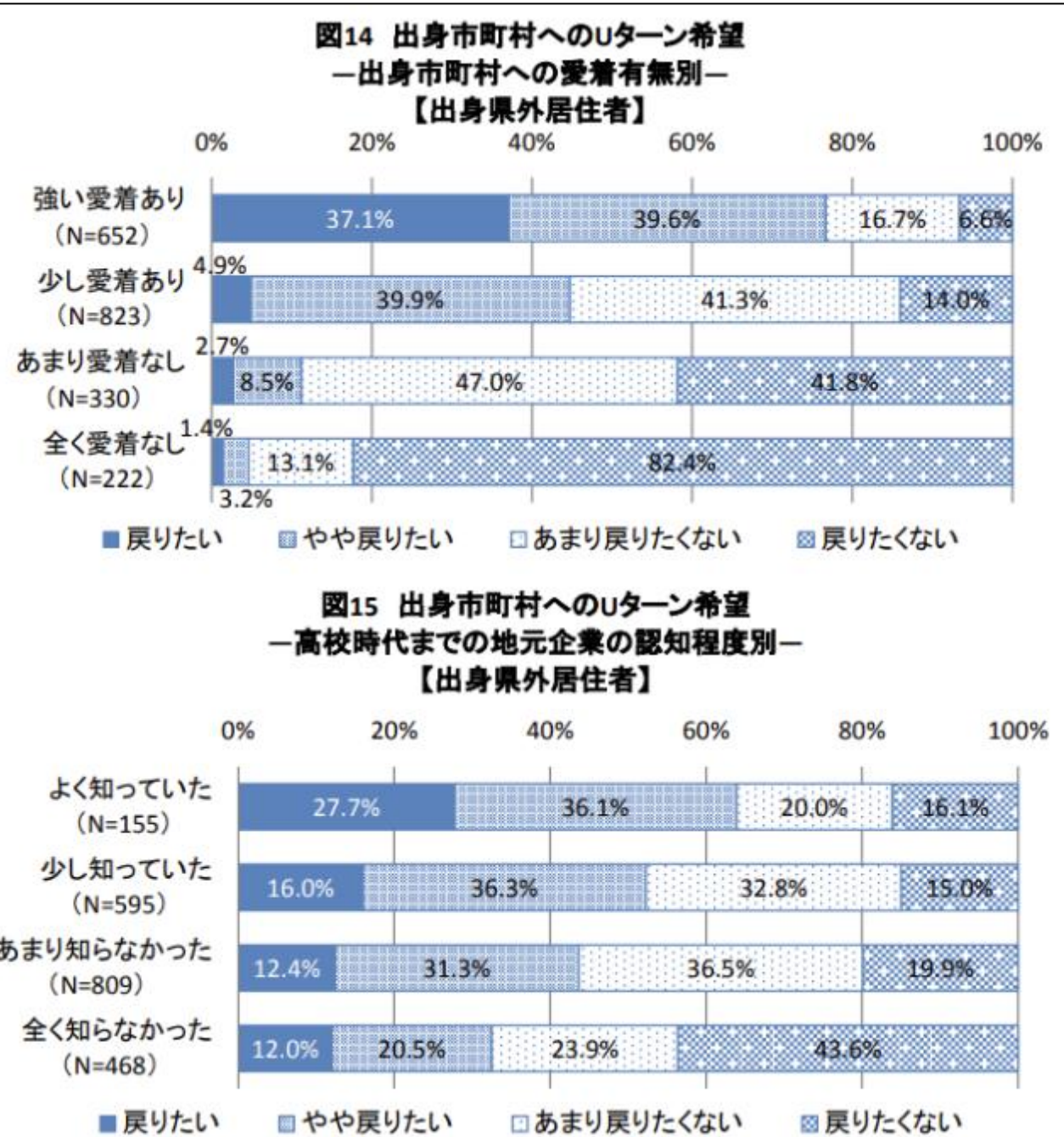
文部科学省 たった体験

検索

②若年層の人口流出



総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、
総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数を基にGD Freak!が作成



事業の内容と成果など

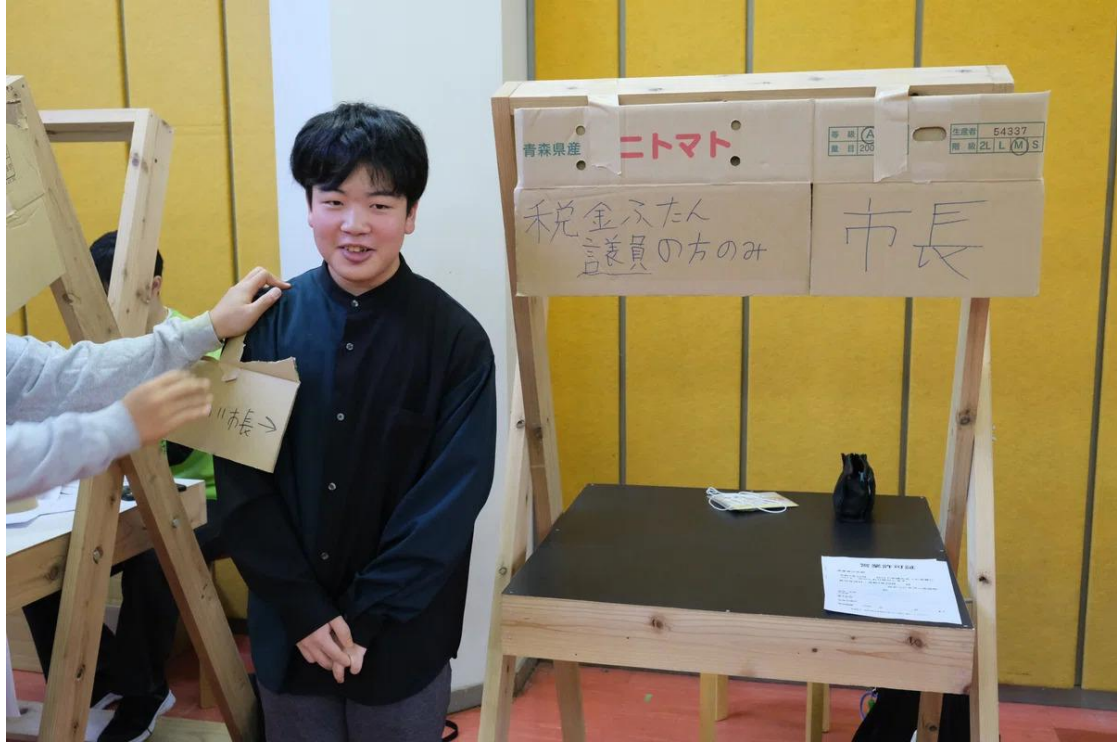
○こどものまち「みやっこタウン」開催

参加者がみやっこタウンの市民となり、「仕事」「大学」「消費（遊び、買い物）」などの合計46ブースで、宮古の仕事体験や納税などを行い、楽しみながら社会の仕組みを学んだ。昨年の市長選挙に続き市議会議員選挙を行い、みやっこタウン初となる議員が誕生。初の議会が開かれた。



日 時：2025年10月12日(土)13日(日)
会 場：旧赤前小学校
参加児童：のべ267人
(小学4～6年生、中学1年生)
協力団体：34社・団体（46ブース）











シールをはって
おしえてね!!

みやっこタウン
どれくらい楽しかった?



[illegible]

保護者アンケート

ひとりひとりがしたいことをしたいようにして、楽しめる街って素晴らしいし、考えることが出来て素晴らしいねと話しました。

違う学校の子とも友達になって、一緒に遊べて、とても楽しかったと話していました。

もっと色々な職業を体験したかったと話していました。
今回のみやっこタウンで、**新たに興味を持った職業もあったようです。**

働かないと、のどが渴いてもジュースも買えないんだとわかった。

いっぱい働いたらその分余暇を楽しむ幸せ、税金でたくさんの恩恵を受けていることなど、身を持って知れたようです。

今まで堅実なタイプでしたが、学びよりも遊びや楽しみを優先させたようで、**親としては子の別の一面も見ることができました。**また来年も参加することを今から楽しみにしているようです。

納税により、町が暮らしやすくなったり、大学や選挙など、**社会の仕組みを身を持って体験出来るのが、本当に素晴らしい**と思います。

子供が高学年になったら是非参加させたいなと思いながら、**成長に遅れのある我が子には無理だな**と毎年諦めていました。**手厚くサポートしていただきながらとても充実した2日間を過ごさせていただいた様です。**沢山の人の支えて貰いながら社会の一員として生きていけるんだよということを実感し本人にも話す事が出来ました。

事業の経費

収入

提案事業予算	1,500,000
参加者負担金	134,000
企業負担金	74,200
実施主体負担金	181,136
合計	1,889,336

支出

消耗品費	93,770
印刷製本費	160,710
役務費	408,768
原材料費	208,088
人件費	864,000
食糧費（対象外）	154,000
合計	1,889,336

協働について

市との役割分担および協働したことによる効果

宮古市教育委員会学校教育課：

- ・会場および駐車場利用に向けた連絡調整
- ・参加児童募集に係る学校への周知調整 等

廃校になった旧赤前小学校を会場とした。
会場利用に係る教育委員会総務課、生涯学習課との連絡調整を行って
いただくことで、スムーズな会場利用につながった

ほか、各小学校へ案内いただいたことにより、
参加児童募集のための学校での告知をスムーズに行うことができた

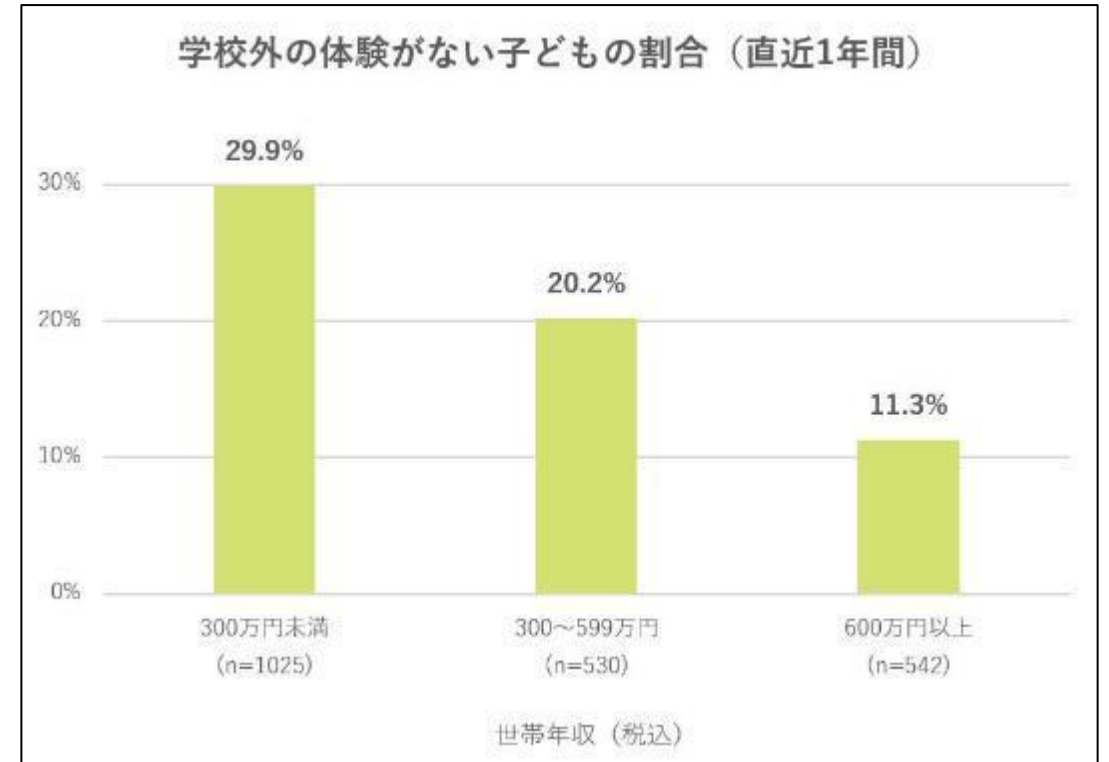
今後の展望について

- 課題（スライド2）の現状について

①子どもの体験活動、キャリア教育の充実

②若年層の人口流出

これらの課題はすぐに解決される
ものではなく、
継続的に取り組んでいく必要がある



今後の展望について

- これからの事業について

体験の質の維持・向上を図りながら、
より多くの子どもたちに機会を提供できるよう、継続していきたい



- ①食べ物の種類・飲食店の増加について
- ②出店したい人に500ベスカを追加支給する案
- ③転売対策として、発見者への報奨金と転売者への罰金制度

④遊び場を増設すること

⑤ローン制度を導入すること

5つの議案全てが全会一致で可決

ご清聴ありがとうございました。



NPO法人
みやっこベース